

## 事項六 日伊通商暫定取極締結一件

二〇五 七月一日

在伊国今井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

伊国政府ヨリ日伊通商条約ノ更新及廢棄ニ関  
スル大正七年十二月ノ暫定取極ノ修正方提議  
並右条約廢棄通告ニ付請訓ノ件

第一〇六号

(七月三日接受)

六月三十日附外務省政務次官署名ノ公信ヲ以テ本官宛左ノ  
訳文ノ通り申来レリ就テハ右ニ対スル回答振至急何分ノ御  
電訓ヲ請フ

經濟上ノ理由ニ依リ伊国政府ハ他国ト締結シタル又ハ締結  
スベキ協約ニ關聯シ伊太利關稅制度ノ情況ヲ審査セント  
(脱)關稅ニ關スル諸條約ノ失効期限ヲ本年九月末日ニ定  
ムルヲ必要トスルニ至ル可キ見込ミナリ伊国ト他国トノ間  
ニ締結シタル條約延長ニ關スル協約ハ失効ノ期限ノ指定ニ  
關シ大体ニ於テ伊国政府ニ全然行動ノ自由ヲ確保スル処千  
九百十八年十二月十六日、二十五日附ヲ以テ東京ニ於テ日  
本政府伊太利大使館ノ間ニ交換シタル公文ニ依レバ日伊条

約ハ三ヶ月以前ニ廢棄ヲ聲明シタル場合ニアラザレバ効力  
ヲ失フコトナキ旨規定セリ伊国政府ハ協議ニ依リ伊国ト通  
商關係ヲ有スル総テノ国ニ対シテ單一ノ關稅制度ヲ同時ニ  
施行スルコトヲ得ンガ為ニ日伊條約ノ廢棄ノ聲明ハ單一  
ヶ月以前ニ之ヲ通告スルヲ以テ足ルトノ意味ニ前頭公文ニ  
基キ約定ヲ變更スルコトニ日本政府ニ於テ同意サレシコト  
ヲ請フ

Le Gouvernement Royal dans le but de se trouver  
à même, le cas échéant, d'initier simultanément un  
régime douanier unique envers tous les pays ayant des  
relations commerciales avec l'Italie saurait gré au Gou-  
vernement impérial s'il voulait bien consentir à modi-  
fier l'engagement réciproque résultant des notes sus-  
mentionnées dans le sens qu'il soit suffisant que l'avis  
de dénonciation définitif du traité Italo-Japonais soit  
notifié un mois seulement à l'avance.

右ノ趣日本政府へ至急御轉達ノ上日本政府ニ於テ之ニ同意

セラルベキヤ何分ノ義御回示煩シタシ  
尤モ日本政府ニ於テ右提議ニ同意ヲ与ヘ難シトセラルル場  
合ニハ本信ハ日伊條約ノ公式ノ廢棄聲明ト認メラルベキモ  
ノニテ從テ右條約ハ千九百十九年九月三十日ヲ以テ効力ヲ  
失フ可キ義ト御承知アリタシ

註 日本外交文書大正七年第一冊七六文書ノ附屬書一及同二參

照

二〇六 七月二日

在伊国今井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日伊通商条約ノ廢棄通告ニ關シ伊国外務省事

務当局説明ノ件

第一〇七号 至急

(七月三日接受)

往電第一〇六号ニ關シ  
外務省條約課長ニ聞質シタル処ニ依レハ(一)該條約廢棄ノ通  
告ハ他ノ七国(客年往電第一号)<sup>(註1)</sup>ニ対シテハ之ヲ為サズ此  
等諸国ニ対シテモ一律ニ九月末日ニ條約ノ廢棄ヲ為ス政府  
ノ決心ナルモ唯其ノ廢棄通告ハ客年貴電第一〇六号<sup>(註2)</sup>ト同文  
ノ右諸国ニ対スル暫定條約ノ取極ニ基キ九月末日迄ノ何レ  
ノ日ニ於テモ廢棄ヲ通告スレハ可ナリトノ解釈ヲ為シ居ル

モ實際礼義上一ヶ月前位ニ予告スル考ナルカ独リ日本ニ対  
シテハ暫定文言ニ基キ三ヶ月前ノ予告ヲ為ス次第ナリ(二)伊  
国政府ノ内意ハ協定稅率ノ規定ヲ修正スルニアリ從テ條約  
中ノ其他ノ規定ハ何等カノ形式ニテ存続ヲ希望シ居レリ稅  
率ニ關スル新協定九月末迄ニ纏マラザル場合ニハ輸入品ニ  
關定稅率ヲ課スルカ又ハ更ニ一ヶ月位ノ予告ニテ廢棄スヘ  
キ暫定條約締結ヲ申出ツルカ其辺ノ処未定ナリ(三)議會ニ於  
ケル關稅調查委員會ノ報告(新第六一号)ニ基キ其後政府  
ヨリ何等關稅法案ヲ提出シ居ラス從テ新ニ各國ト關稅上ノ  
協定ヲ為ス基礎トナルヘキ稅率ハ伊国側ニハ之ナシ(四)要ス  
ルニ九月末ニ至リ各國一律ニ最惠ノ取極ヲ除キ行動ノ自由  
ヲ留保シタキ考ナリ尚本官ハ私見トシテ條約廢棄通告期日  
ハ對手国政府カ右通告ヲ受取タル日ヨリ起算スヘキモノト  
信スルモ兎モ角貴信ノ次第ハ不取敢政府ニ請訓セリト述ヘ  
タルニ先方ハ右等廢棄通告ハ直接對手国政府ニ之ヲ為セル  
場合ト伊国駐在使臣ニ通告セル場合ト二様ノ先例アリト答  
ヘタリ

註1 日本外交文書大正七年第一冊五九文書

2 同右七〇文書ノ別電

二〇七 七月三日

在伊国今井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日伊通商条約ノ廢棄通告ニ関シ大藏省当局伊  
国政府ノ真意説明ノ件

第一一〇号

(七月六日接受)

往電第一〇七号ニ関シ

更ニ大藏省条約局長ニ聞キ訊シタル処其ノ答ニ依レハ伊国  
関税法案ハ近キ将来ニ議會ニ提出セラルル筈ト信スルモ其  
ノ的確ナル期日及右法案ニ協賛ヲ与フル日限モ予定シ難シ  
從ツテ新条約ニ関スル談判開始ノ日取リスラ見込ツカス去  
月卅日ノ通告ハ日本トノ条約ヲ九月限りニテ廢棄スル伊政  
府ノ本意ニアラス唯日伊間ノ条約ヲ他ノ七国ト同様ノ基礎  
ニ置キ度ク即一ヶ月ノ予告ニテ廢棄シタキ精神ニ過キスト  
答ヘタルニ付本官ハ他ノ七国暫定条約文中ニハ一ヶ月予告  
ノ文言ナキコト(昨年貴電第一〇六号)及之ニ関スル外務  
省ノ説明(往電第一〇七号)ヲ指摘シタルニ先方ハ日本政  
府側カ提議ノ最初ノ部分(往電第一〇六号仙文)ヲ承認セ  
ラレザル場合ニハ相応ノ時期ニ於テ更ニ暫定条約ヲ結ビ右  
条約中ニ一ヶ月ノ予告廢棄ノ文字ヲ挿入シテ可ナリト述ヘ  
更ニ外務省員ノ述ヘタル九月後ニ国定税率ヲ課スルカ如キ

第三九号

貴電第一〇六号ニ関シ

(一)客年十二月調印日伊通商暫定取極ヲ本年九月三十日限り  
失効セシメムトスル伊国政府ノ通告ハ單純ノ通告タルヘキ  
筈ナルニ拘ラズ一定ノ条件ノ下ニナシ居リ且ツ通告ノ効力  
ハ日本ガ該提議ニ同意セザル場合ニ發生スルモノナルニヨ  
リ三ヶ月ノ予告アリタルモノト看做スヘキヤ多少議論ノ余  
地ナキニ非ザルモ兎ニ角之レヲ了承シ置カレ差支ナシ当方  
ニ於テモ已ニ官報ニ告示済

(二)九月三十日以後右暫定取極ヲ引続キ存続セシムルコトニ  
付テハ帝國政府ニ於テモ主義上異存ナキ所ナリ乍併日伊兩  
国間ノ貨物積送ニハ約一ヶ月半ノ長日子ヲ要スルニ拘ラズ  
伊国新提議ニテハ廢棄通告期間ヲ一ヶ月ニ短縮シ居ルニ付  
之ヲ無条件ニ承諾スルニ於テハ其ノ結果兩國間ノ貿易ニ從  
事スル商人ハ暫定取極アルニ拘ラズ常ニ貨物發送ノ際該貨  
物到着後如何ナル輸入税ノ支払ヲ要スルヤスラ不明ナルコ  
トトナリ事實暫定取極ナキト同一ノ不安不便生ズベキニ付  
伊国新提議ハ乍遺憾何等カ多少ナリトモ緩和セラレザル限  
リ到底之レヲ応諾シ難シ尤モ本件ニ関シテハ互讓ノ基礎ニ

ハ伊政府ノ精神ニアラスト明言セリ

右ノ回答ハ第一〇七号ト多少相異ノ点アル処当国ニテハ条  
約改正ノ実権ハ第一ニ大藏省次ニ農商務省ノ管掌ニ係リ外  
務省ハ單ニ対外形式事項ヲ取扱居ル實際ニ徴シ前段大藏省  
当局ノ回答真相ヲ得タルモノト認ム

二〇八 七月十一日 外務省告示

伊国政府ノ日伊通商航海条約廢棄通告ニ関シ  
告示ノ件

外務省告示第十五号

帝國政府ハ伊国政府ヨリ大正七年十二月二十五日日伊兩國  
間ニ締結セラレタル通商航海ニ関スル暫定取極(大正七年  
十二月外務省告示第二十三号参照)ヲ来ル九月三十日限り  
失効セシムヘキ旨去六月三十日附通告ニ接シタリ

大正八年七月十一日

外務大臣子爵 内 田 康 哉

註 右告示ハ大正八年七月十一日ノ官報ニ掲載セラレタリ

二〇九 七月十三日

内田外務大臣ヨリ  
在伊国今井臨時代理大使宛(電報)

日伊通商暫定取極ノ廢棄通告ニ関シ回訓ノ件

依リ新暫定取極ヲ成立セシメ度キ意嚮ニテ折角關係省トモ  
協議中ナルニ付伊国政府ヘ交渉方更ニ訓令スベシ

二一〇 七月十四日

幣原外務次官ヨリ  
大塚農商務神野大藏各次官宛

日伊通商航海条約廢棄問題ニ関スル交渉方針

二付意見問合ノ件

調機密合送第三〇五号

日伊通商航海条約ハ客年十二月二十五日附兩國間ノ暫定取  
極ニ依リ本年六月三十日以後ハ何時タリトモ三ヶ月ノ予告  
ヲ以テ廢棄シ得ヘキコトトナリ居レル処伊国政府ハ伊国ト  
通商關係ヲ有スル総テノ国ニ対シテ單一ノ關稅制度ヲ同時  
ニ施行スルコトヲ得シカ為爾今前記暫定取極ハ何時タリト  
モ單ニ一ヶ月ノ短期予告ヲ以テ廢棄シ得ヘキコトニ變更シ  
度キ旨ヲ提議シ若又帝國政府ニ於テ右提議ヲ承認シ得サル  
場合ニハ客年締結ノ暫定取極ノ予告期限ニ從ヒ日伊通商航  
海条約ヲ本年九月三十日限り失効セシムルコト、シ度キ旨  
通告シ来レル趣ニテ別紙甲号ヲ通在伊今井代理大使ヨリ  
電報有之候然ルニ右伊国提議中廢棄予告期間ヲ一ヶ月ニ短  
縮スルコトハ日伊兩國間ノ距離遠隔ナルニ鑑ミ兩國間ノ貿

易ニ従事スル商人ニ対シ事實暫定取極ナキト同一ノ不安不便生セシムヘキニ付容易ニ応諾シ難ク去リトテ来ル九月三十日限りニテ日伊暫定取極ヲ失効セシムルコトモ兩國貿易關係上寧ロ我ニ不利ナル影響可有之思考セラレ候ニ付伊國ノ提議ハ其骨子ニ於テ之ヲ承認スルト同時ニ前記兩國距離ノ遠隔ヨリ生スル不便ヲ緩和セシカ為伊國提議ニ修正ヲ加ヘ暫定取極ハ伊國提議通り何時タリトモ一ヶ月ノ予告ヲ以テ廃棄シ得ヘキコトスルモ右予告アリタル後一ヶ月以内ニ本邦ヲ発航シタル船舶ニ搭載セル貨物即チ暫定取極有効期間内ニ本邦ヨリ發送セラレタル貨物ハ該期間経過後ニ在リテモ依然トシテ伊國ニ於テ暫定取極ニ依ル利益ヲ享受シ得ヘキ旨ノ条件ヲ相互ノ基礎ニ依リ附加スルコトヲ提議シ度若又右我提議スラモ伊國政府ニ於テ同意セサル場合ニ於テハ止ムヲ得サルニ付現ニ伊仏等ノ國ト關係各國トノ間ニ締結セラレ居リ將又客年日伊暫定取極締結交渉ノ際伊國政府ヨリ提議シタル案即チ日伊條約ハ兩締約國ノ一方ヨリ之カ廃棄ヲ聲明セサル限り毎三ヶ月毎ニ暗黙ニ更新セラレ得ヘキコトスル別紙乙号案ニ依リ交渉ヲ試ムルノ外致方無之様思考セラレ候処右方針ニテ交渉シ差支ナキヤ貴省ノ御

大正八年七月廿四日

農商務次官 犬塚勝太郎(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

大正八年七月十四日附調機密合送第三〇五号ヲ以テ御照会ノ趣了承右ハ貴省ノ御意見ニ異議無之候条此段及回答候也

二二三 八月一日 内田外務大臣ヨリ  
在伊國今井臨時代理大使宛(電報)

日伊通商暫定取極ニ関スル伊國新提議ノ修正

方訓令ノ件

別電 八月二日内田外務大臣発在伊國今井臨時代理大使宛第四四号

第四三号

往電第三九号(ニ)末段ニ関シ

右往電ヲ以テ申進シタル通日伊暫定取極ニ関スル伊國新提議ヲ承認シ廢棄予告期間ヲ一ヶ月ニ短縮スルトキハ日伊兩國間ノ距離遠隔ナルニ鑑ミ兩國間ノ貿易ニ従事スル商人ハ事實暫定取極ナキト同一ノ不安不便ヲ見ルヘキニ付其ノ儘ニテハ応諾シ難シ去帝國政府ニ於テモ伊國政府ト等シク来ル九月三十日限り日伊暫定取極ヲ失効セシムルコトハ彼我

六 日伊通商暫定取極締結一件 二二三

意見交渉上ノ必要モ有之候ニ付折返シ御回示相煩度此段得貴意候也

註 別紙甲号及乙号寫省略ス右甲号ハ前掲二〇五文書ト同文ニシテ又乙号ハ日本外交文書大正七年第一冊六七文書ト同文ナリ

二二一 七月十九日 神野大藏次官ヨリ  
幣原外務次官宛

日伊通商航海條約廢棄問題ニ関シ回答ノ件

藏第七九五一号 (七月二十一日接受)

大正八年七月十九日

大藏次官 神野勝之助(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

日伊通商航海條約廢棄ノ件ニ関シ本月十四日附調機密合送第三〇五号ヲ以テ御申越之趣了承右来示ノ方針ニテ伊國政府ヘ交渉相成候義異存無之候此段及回答候也

二二二 七月二十四日 犬塚農商務次官ヨリ  
幣原外務次官宛

日伊通商航海條約廢棄問題ニ関シ回答ノ件

商第一一三八七号

貿易關係上甚望マシカラザルコトナルヲ以テ何トカシテ無條約關係ニ入ラザル様努メタク就テハ互讓ノ精神ニ基キ伊國新提議ハ其ノ骨子ニ於テ之ヲ承認スルト同時ニ前記兩國距離ノ遠隔ヨリ生スル不便ヲ緩和セシカ為別電第四四号ノ如キ修正ヲ加ヘ暫定取極ハ伊國提議ノ通何時タリトモ一ヶ月ノ予告ヲ以テ廢棄シ得ヘキモノトスルト同時ニ右予告アリタル後一ヶ月以内ニ兩締約國ノ一方ノ港ヲ発航シタル船舶ニ搭載シタル貨物ハ暫定取極有効期間経過後兩締約國ノ版図内ニ到着スル場合ト雖依然現行暫定取極ニ依ル利益ヲ享受シ得ヘキ趣旨ノ条件ヲ提議シ右ニ依リ妥協ヲ試ムル様充分御尽力ノ上協定纏リタル節ハ文書交換前一応請訓セラレタシ

(別電)

八月二日内田外務大臣発今井臨時代理大使宛電報第四四号  
日本政府ノ修正案

別電第四四号

客年十二月締結ノ日伊暫定取極中ノ前段 jusqu'au 30 Juin 1919 ヲ jusqu'au 30 Septembre 1919 へ改メ更ニ trois mois après cette dénonciation ヲ un mois après cette dénonciation ト修正ノ上左ノ新項ヲ追加ス

Il est entendu, toutefois, que les articles exportés par les navires partant des ports de l'une des deux Parties Contractantes dans le délai de dénonciation sus-mentionné, jouiront, même après l'échéance de ce terme, dans le territoire de l'autre Partie, des avantages et privilèges qui sont accordés par le présent Accord commercial provisoire entre le Japon et l'Italie.

二二四 八月三十日 在伊国今井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日伊通商暫定取極ノ交換公文案ニ関スル件

別電一 八月三十日在伊国今井臨時代理大使発内田外務大臣宛電報第一三十七号

八月三十日附伊国外務省ヨリノ正式通牒

二 八月三十日在伊国今井臨時代理大使発内田外務大臣宛電報第一三八号、在伊国今井臨時代理大使回答案

附記 八月三十一日今井臨時代理大使発内田外務大臣宛電報第一四二号、右回答案ノ宛名ノ件

第一三六号 (九月一日接受)

貴電第四三号ニ関シ

伊国政府ニ於テ貴電第四四号ノ趣旨ニ依リ暫定取極ヲ承認

Impérial Japonais consent à cette proposition.

Vous agréer, Monsieur le Chargé d'Affaires, les assurances de ma considération la plus distinguée.

(Signé) C. Sforza  
(Adressé) Monsieur Imai, Chargé d'Affaires ad interim du Japon à Rome.

(別電二)

八月三十日今井臨時代理大使発内田外務大臣宛電報第二三八号  
今井臨時代理大使ノ回答案

第一三八号 (九月一日接受)

本官ヨリノ回答案

Monsieur le Sous-Secrétaire d'Etat,

D'après les ordres que je viens de recevoir, j'ai l'honneur de communiquer à Votre Excellence, en réponse à sa note du-, que le Gouvernement Impérial du Japon est d'accord avec le Gouvernement Royal d'Italie sur la proposition suivante

外務省来文(クォーティション、マーク)ノ間ニアル全文ヲ認メ未段

Vous agréer, Monsieur le Sous-Secrétaire d'Etat,

六 日伊通商暫定取極締結一件 二二五

セルニ付交換文案外務当局ト打合セ済ノ処其ノ後何等カノ行違ヒニテ外務省ヨリ別電第一三七号ノ通り八月卅日附ニテ正式通牒ニ接セルニ付本官ヨリ第一三八号案文ノ通り回答シタキ意嚮ナリ右ニテ差支ヘ無之ヤ至急何分ノ御回訓ヲ請フ

(別電一)  
八月三十日今井臨時代理大使発内田外務大臣宛電報第一三七号  
八月三十日附伊国外務省ヨリノ正式通牒

第一三七号 (九月一日接受)

伊国外務省来翰左ノ通

Monsieur le Chargé d'Affaires,

J'ai l'honneur de vous transmettre au nom du Gouvernement Italien la proposition suivante:

客年十二月二十五日伊国大使ト貴大臣トノ間ニ交換サレタル暫定取極ノ本文ヲ貴電第四四号ノ通訂正シ

同電報ニアル新項ヲ追加ス(右二項ヲ「クォーティション、マークス」ノ間ニ置ク)

Je vous saurais gré si vous voulez bien de me faire connaître aussitôt que possible si le Gouvernement

l'assurance de ma très haute considération トミ宛名ノ  
Son Excellence Monsieur le Comte Carlo Sforza, Sous-Secrétaire d'Etat au Ministère des Affaires Étrangères à Rome.

(附記)

八月三十一日在伊今井臨時代理大使発内田外務大臣宛電報第一四二号

右今井臨時代理大使回答案ノ宛名ノ件

第一四二号 (九月一日接受)

当国外務大臣近々巴里ヨリ帰任ノ様子ニ付キ往電第一三八号本官返翰宛名ハ次官宛ニアラズシテ同大臣宛 Sénateur Titoni ニスルノ必要アルベキヲ予見ス、念ノ為。

二二五 九月十一日 内田外務大臣ヨリ  
原内閣総理大臣宛

日伊通商暫定取極締結方ニ関シ閣議申請ノ件

条一機密送第七六号

大正元年十一月二十五日調印ノ日伊通商航海条約ハ客年十二月二十五日附日伊暫定取極ニ依リ本年六月三十日迄其ノ効力ヲ存続シ同日以後ハ何時タリトモ三ヶ月ノ予告ヲ以テ廃棄シ得ヘキコトナリ居レル処去六月三十日附ヲ以テ伊

国政府ハ伊国ト通商關係ヲ有スル総テノ国ニ対シテ単一ノ関稅制度ヲ同時ニ施行スルコトヲ得シカ為爾今前記暫定取極ヲ何時タリトモ単ニ一ヶ月ノ短期予告ヲ以テ廢棄シ得ヘキコトニ變更シタキ旨ヲ提議シ若又帝國政府ニ於テ右提議ヲ承諾シ得サル場合ニハ客年締結ノ暫定取極ノ予告期限ニ從ヒ日伊通商航海條約ヲ本年九月三十日限り失効セシムルコトトシタキ旨通告致越候然ルニ右伊国提議前段即チ廢棄予告期間ヲ一ヶ月ニ短縮スルコトハ日伊兩國間ノ距離遠隔ニシテ兩國間ノ貿易ニ從事スル商人ニ対シ事實暫定取極ナキト同一ノ不安不便ヲ生セシムヘキニ鑑ミ容易ニ応諾シ難ク去リトテ來ル九月三十日限りニテ日伊暫定取極ヲ失効セシムルコトモ兩國貿易關係上不利ナル影響有之ヘキニ付伊國ノ提議ハ其骨子ニ於テ之ヲ承認スルト同時ニ前記兩國距離ノ遠隔ヨリ生スル不便ヲ緩和センカ為右暫定取極ハ何時タリトモ一ヶ月ノ予告ヲ以テ其ノ効力ヲ失フヘキコトスルト共ニ右予告期間内ニ兩締約國ノ一方ノ港ヲ發航シタル船舶ニ搭載シタル貨物ハ暫定取極有効期間經過後兩締約國ノ版図内ニ到着スル場合ト雖依然現行暫定取極ニ依ル利益ヲ享受シ得ヘキモノトスル趣旨ノ修正ヲ加ヘ右趣旨ニテ妥

ル利益及特典ヲ享ク

本官ハ貴國政府ニ於テ本件有効期間ノ延長ニ同意セラルヘキヤ否ヤニ付成ルヘク速ニ貴答ニ接シ度致希望候  
右申進旁本官ハ茲ニ重テ貴官ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百十九年八月三十日羅馬ニ於テ

セー、スフォルツァ

日本国臨時代理大使 今井 忍郎殿

乙号

伊国外務次官宛復翰

以書翰致啓上候陳者八月三十日附貴翰了承本官ハ今回接手セル訓令ニ遵ヒ帝國政府ニ於テハ左記伊太利王国政府ノ提議ニ同意ヲ表スル旨通告スルノ光榮ヲ有シ候

千九百十二年十一月二十五日附日伊通商航海條約ハ千九百十九年九月三十日ニ至ル迄効力ヲ存続スヘク右期限到來以後ハ兩締約國ノ一方ヨリ其ノ廢棄ヲ声明スル迄ノ間暗黙ニ更新セラレタルモノト看做ス右廢棄ノ場合ニ於テハ其ノ声明後一月ヲ経テ條約ハ効力ヲ失フ

但シ前記廢棄猶予期間内ニ兩締約國ノ一方ノ港ヲ發航シタル船舶ニ搭載セル貨物ハ右期間經過後他方締約國ノ版

結方過般來在伊今井代理大使ヲシテ伊國政府ト交渉セシメ置キ候処今般伊國政府ニ於テモ我提案ヲ承諾シタルニ付伊国外務次官ト今井代理大使トノ間ニ別紙甲乙兩号公文案交換ニ依リ本件ヲ措置スルコトト致度尚本件ハ現行暫定取極ノ有効期間不日終了スルニ顧ミ至急閣議御決定相成度此段請議候也

(別紙)

通商ニ關スル日本伊太利間暫定取極

甲号

伊国外務次官來翰

以書翰致啓上候陳者本官ハ伊太利政府ノ名ニ於テ貴官ニ対シ次ノ提議ヲ通告スルノ光榮ヲ有シ候

千九百十二年十一月二十五日附日伊通商航海條約ハ千九百十九年九月三十日ニ至ル迄効力ヲ存続スヘク右期限到來以後ハ兩締約國ノ一方ヨリ其ノ廢棄ヲ声明スル迄ノ間暗黙ニ更新セラレタルモノト看做ス右廢棄ノ場合ニ於テハ其ノ声明後一月ヲ経テ條約ハ効力ヲ失フ

但シ前記廢棄猶予期間内ニ兩締約國ノ一方ノ港ヲ發航シタル船舶ニ搭載セル貨物ハ右期間經過後他方締約國ノ版図内ニ到着スル場合ト雖依然現行日伊通商暫定取極ニ依

図内ニ到着スル場合ト雖依然現行日伊通商暫定取極ニ依ル利益及特典ヲ享ク

右申進旁本官ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具  
千九百十九年 月 日羅馬ニ於テ

今井 忍郎

伊太利国外務次官伯爵 セー、スフォルツァ閣下

註 右甲号及乙号ノ公文ニ付テハ前顯二二四文書ノ別電一及同ニ参照

二二六 九月十五日 内田外務大臣ヨリ 在伊國今井臨時代理大使宛 (電報)

日伊通商暫定取極御裁可奏請中ナル旨回報ノ

件

附記一

日伊通商暫定取極ニ關スル公文交換ノ件審查報告

二

日伊通商暫定取極締結ニ關スル説明

第五五号

貴電第一四三号ニ關シ

当方ニ於テハ貴電第一三六号暫定取極回答文案ニ異議ナキモ右ハ目下樞密院ヲ経テ御裁可奏請中ナルヲ以テ右御裁可アリ次第更ニ数日中ニ訓令スヘシ

註一 九月九日今井臨時代理大使發外務大臣宛電報第一四三号  
九月十一日接受ノ全文左ノ通り

「往電第一三六号暫定取極回答發送ニ関シ至急何分ノ御電訓ヲ請フ」

2 日伊通商暫定取極ノ件ハ日仏通商暫定取極ノ件ト共ニ九月十九日開催ノ枢密院會議（前掲二〇一文書）ニ上程セラレタルガ右會議ニ於ケル枢密院書記官長ノ審査報告書及外務省条約局調成ノ説明書ヲ夫々附記一及同二トシテ左ニ採録ス

### （附記一）

日伊通商暫定取極ニ関スル公文交換ノ件審査報告

謹テ今回御諮詢ノ日伊通商暫定取極ニ関スル公文交換ノ件ヲ審査スルニ大正元年十一月二十五日調印ノ日伊通商航海条約ハ既ニ大正五年十二月伊国政府ニ於テ其ノ廢棄ヲ声明シタルニ因リ同条約第二十一条ノ規定ニ照ラシ大正六年十二月末日限り其ノ効力ヲ失フヘキ狀況ニ在リシカ爾來歐洲戰乱ノ為一般經濟情態不安固ニシテ確定条約ヲ締結スルニ便宜ナラサリシカ故ニ臨機ノ処置トシテ大正六年十二月本院ノ御諮詢ヲ經日伊兩國政府ノ間ニ通商暫定取極ニ関スル外交文書ヲ交換シテ大正七年中右条約ノ効力ヲ繼續スヘキ

ニ兩國ノ一方ノ港ヲ發航シタル船舶ニ搭載セル貨物ハ右期間經過後他方ノ版図内ニ到著スル場合ト雖仍本件条約ニ規定セル利益及特典ヲ享受スヘキ義ノ条件ヲ附加スルコトヲ希望スル旨ヲ回答シ茲ニ兩國政府ノ意見一致シ既ニ去月三十日附ヲ以テ伊国政府ハ上叙ノ趣旨ノ公文ヲ我ニ交付シタルニ由リ帝國政府モ亦同一趣旨ノ公文ヲ彼ニ交付セムトス是レ今回日伊通商暫定取極ニ関スル公文交換ノ要義ニシテ按スルニ本案ハ已ムヲ得サル措置ニ属シ且別ニ支障ノ廉ナキニ付此ノ儘可決セラレ然ルヘシト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

大正八年九月十七日

枢密院書記官長 二 上 兵 治  
枢密院議長公爵 山 県 有朋殿

### （附記二）

日伊通商暫定取極締結ニ関スル説明

大正元年十一月締結ノ日伊通商航海条約ハ客年十二月二十五日附日伊兩國間ノ暫定取極ニ依リ本年六月三十日ニ至ル迄其ノ効力ヲ存続シ同日以後ハ何時タリトモ三ヶ月ノ予告ヲ以テ廢棄シ得ヘキコトナリ居レル処伊国政府ハ伊国ト

コトヲ約定シ更ニ昨年十二月本院ノ御諮詢ヲ經兩國政府間ニ同様ノ外交文書ヲ交換シテ該条約ハ本年六月三十日迄其ノ効力ヲ存続シ爾後兩國ノ一方ヨリ三月ノ予告ヲ以テ之カ廢棄ヲ声明スルコトヲ得ヘキ旨ヲ約定シタル本条約附屬稅表ニ掲ケタル協定關稅率ハ日伊貿易ノ現況ニ在リテハ我國ノ為甚タ有利ナルカ故ニ其ノ効力ノ繼續ハ寧ロ我國ニ於テ希望スル所ナリト雖本年六月伊国政府ヨリ廢棄ノ意思ヲ通告シ来リシニ因リ右条約ハ本年九月末日限り失効スヘキコトト為リシカ之ト同時ニ同政府ニ於テハ更ニ兩國政府間ニ通商暫定取極ヲ為シ以テ該条約ハ此ノ期日以後兩國ノ一方ヨリ其ノ廢棄ヲ声明スル迄暗黙ニ更新セラレタルモノト看做シ廢棄ノ場合ニ在リテハ其ノ声明後一月ヲ經テ失効スヘキ旨ヲ約定セムコトヲ提議セリ条約廢棄ノ猶予期間ヲ一月ニ短縮スルハ畢竟自國ノ拘束ヲ輕減スル所以ニシテ伊國ノ熱心希望スル所ニ係リ我國ニ於テ強テ之ニ反對スルコト困難ナルノ事情アリ唯彼我土地遠隔ナルカ為僅ニ一月ノ予告ヲ以テ条約カ廢棄セララルニ於テハ貿易當業者ニ不慮ノ損失ヲ蒙ラシムルノ虞少カラサルカ故ニ帝國政府ハ主義トシテ前記伊国政府ノ提議ニ同意スルモ廢棄猶予期間ノ滿了前

通商關係ヲ有スル總テノ國ニ對シテ單一ノ關稅制度ヲ同時ニ施行スルコトヲ得ンカ為爾今前記暫定取極ハ何時タリトモ單ニ一個月ノ予告ヲ以テ廢棄シ得ヘキコトニ變更シ度キ旨ヲ提議シ若又帝國政府ニ於テ右提議ヲ承諾シ得サル場合ニハ客年締結ノ暫定取極ノ予告期限ニ從ヒ日伊通商航海条約ヲ本年九月三十日限り失効セシムルコトヲ致度旨本年六月三十日附ヲ以テ伊国外務次官ヨリ在伊今井代理大使宛通告シ来レリ

右伊国政府通告後段ハ客年締結ノ日伊暫定取極ノ文面上之ヲ承認スルノ外ナキニ付帝國政府ニ於テハ不取敢之ヲ了承シ置キタルモ伊国提議前段即チ廢棄予告期間ヲ一個月ニ短縮スルコトハ日伊兩國間ノ距離遠隔ニシテ兩國間ノ貨物積送ニハ長日子ヲ要スルノ事實ニ鑑ミ伊国新提議ヲ無条件ニ承諾スルニ於テハ兩國間ノ貿易ニ從事スル商人ハ貨物發送ノ際該貨物到着後如何ナル輸入稅ノ支払ヲ要スルヤ不明ナルコトナリ事實暫定取極ナキト同一ノ不安不便生スヘキニ付前記兩國距離ノ遠隔ヨリ生スル不便ヲ緩和セシカ為伊国提議ニ修正ヲ加ヘ暫定取極ハ伊国提議通り何時タリトモ一個月ノ予告ヲ以テ廢棄シ得ヘキコトト為スト共ニ右予告

六 日伊通商暫定取極締結一件 二二七 二二八 二一九

アリタル後暫定取極有効期間内ニ両締約国ノ一方ノ港ヲ発航シタル船舶ニ搭載シタル貨物ハ該期間経過後他方締約国ノ版図内ニ到着スル場合ト雖依然トシテ本暫定取極ニ依ル利益ヲ享受シ得ヘキ旨ノ条件ヲ附加スルコトトシ右修正ハ伊国政府ノ承諾ヲ得別記公文案ヲ交換スルコトニ協議纏マリタル次第ナリ

尚本件暫定取極ハ理論上本月末日迄ニ其ノ成立ヲ見レハ足リ必スシモ日仏暫定取極ノ場合ノ如ク一日ヲ争フヘキモノニ非ザルモ是亦電信遲着等ノ關係上取急キ在伊代理大使ノ回訓ヲ要スルニ付至急ノ御協議ヲ煩ハシタル次第ナリ(条約局)

二二七 九月十九日 原内閣総理大臣ヨリ  
内田外務大臣宛

日伊通商暫定取極御裁可ノ件

内閣外甲第五二号

大正八年九月十九日

内閣総理大臣 原 敬(印)

外務大臣子爵 内田 康哉殿

通牒

二二〇 九月二十五日 在伊国今井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日伊暫定取極ニ関スル我回答公文発送済ノ件

第一六九号 (九月三十日接受)

貴電第五六号二十五日接到即日往電第一三八号ノ通回答公文ヲ発セリ日附「Rome, 25 Septembre 1919」公文中「sa note du」ノ次ニ「30 août dernier」ナル先方公文ノ日附ヲ挿入署名者ハ「S. Imai, Chargé d'Affaires ad interim du Japon」宛名ハ「Son Excellence Monsieur le Comte Sforza, Sous-Secrétaire d'Etat au ministère des Affaires Etrangères, Rome」  
外務大臣巴里ヨリ帰任セル為メ宛名ヲ変更シ外務大臣トスルヲ要スル義ト思考セラレタルモ貴電ニハ往電第一三八号回答公文其ノ儘發送スベキ旨明記シアリ往電第一四二号及第一四八号ニ関シ何等御訓示無之且ツ改メテ請訓ノ時日ナキ為メ外務当局ニ懇談ノ上多少ノ困難アリシモ本電ノ如ク取計ヒタル次第ナリ

二二一 九月二十九日 幣原外務次官ヨリ  
犬塚農商務、神野大藏各次官宛

六 日伊通商暫定取極締結一件 二二〇 二二一 二二三

一九四

日伊通商暫定取極ニ関スル公文交換ノ件  
請議ノ通上奏裁可ヲ経タリ

二一八 九月二十日 内田外務大臣ヨリ  
在伊国今井臨時代理大使宛(電報)

日伊通商暫定取極回答公文発送方訓令ノ件

第五六号

貴電第一三八号暫定取極回答公文其儘發送方取計ハレタシ尚当方公表上必要アルニ付右公文ノ發送日附及其ノ末尾ニ記入セラルヘキ署名者ノ官氏名等総テ公文ニ記載セラレタル通り回電アリタシ

二一九 九月二十三日 在伊国今井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日伊間ノ電報延着ニ付注意方稟申ノ件

第一七三号

(九月二十五日接受)

貴電第五五号ニ関シ

近來本邦ヨリノ電報非常ニ延着シ往々一週間ヲ要スルコトモアルニ付御裁可済ノ電報至急御發送之レ無キ場合ニハ九月末迄ニ不到着ノ恐れアルベシ為念申進ズ

日伊通商暫定取極ニ関スル公文写送付ノ件

条一合送第一二六八号

日伊間通商暫定取極ノ件ニ関シテハ本年七月十四日附調機密合送第三〇五号ヲ以テ申進ノ次第有之候処御裁可ノ上去九月十九日在伊今井代理大使ニ対シ別紙写<sup>(註)</sup>ノ通り伊国政府トノ間ニ公文交換方訓電致置候ニ付テハ右御了承ノ上当方ヨリ何分ノ儀申出ツル迄ハ十月一日以後輸入貨物ニ対シテモ可然方法ヲ以テ現行ノ手続ヲ継続セラレ候様致度此段申進候也

註 添付ノ別紙日仏両文写省略

二二三 十月一日 幣原外務次官ヨリ  
犬塚農商務、神野大藏、秦通信各次官宛

日伊通商暫定取極ニ関スル公文ノ交換済ニ付

通報ノ件

条一合送第一二七三号

日伊通商暫定取極ニ関スル件

本件ニ関シ今般在伊今井代理大使ヨリ客月二十五日伊国政府トノ間ニ別紙写<sup>(註)</sup>ノ通公文交換ヲ行ヒタル旨電報致越候条御了知相成度此段申進候也

一九五

註 別紙省略

二二三 十月二日 外務省告示

日伊通商暫定取極成立ニ関スル件

附記 右取極ノ交換公文ヲ掲載セル同日附官報ノ官庁事項

外務省告示第二十一号

大正元年十一月二十五日調印ノ日伊通商航海条約ハ客年十二月締結ノ日伊通商暫定取極ニ依リ其ノ効力ヲ存続シ来リタルカ本年六月三十日附伊国政府ヨリノ廃棄通告ニ依リ本年九月三十日限り失効スヘキモノトナリ居リタル処(本年七月外務省告示第十五号参照)今般日伊兩國政府間ニ於テ右通商航海条約ハ本年十月一日以降兩締約国ノ一方ヨリ之カ廃棄ヲ声明スル迄其ノ効力ヲ存続シ而シテ廃棄ノ声明アリタル場合ニハ右声明後一箇月ヲ経テ条約ハ之カ効力ヲ失フヘク尤モ右暫定取極有効期間内ニ兩締約国ノ一方ノ港ヲ発航シタル船舶ニ搭載セル貨物ハ右期間經過後他方締約国

ノ版図内ニ到着スル場合ト雖依然現行日伊通商暫定取極ニ依ル利益及特典ヲ享受スヘキ趣旨ノ暫定取極成立シタリ  
大正八年十月二日

外務大臣子爵 内 田 康 哉

註 右告示ハ大正八年十月二日附官報ニ掲載セラレタリ

(附記)

日伊通商暫定取極ニ関スル交換公文ヲ掲載セル十月二日附官報ノ官庁事項

○官庁事項

通商ニ関スル日本伊太利間暫定取極 大正元年十一月二十五日締結日伊通商航海条約ノ効力ヲ本年九月三十日以降帝國ト伊太利國トノ間ニ引續キ存続セシムル暫定取極ノ件ニ関シ左ノ通ノ公文交換行ハレタリ

註 該公文ハ之ヲ省略ス前掲二五文書ノ別紙中号伊国外務次官来翰(千九百十九年八月三十日附)及同乙号伊国外務次官宛復翰(千九百十九年九月二十五日附)ト同文ナリ

事項七 日露漁業協約ノ効力持続ニ関スル件

二二四 一月二十七日

在浦潮菊池總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日露漁業協約改締問題ニ関スル浦潮新聞論調

報告ノ件

附記一 通商局意見書

日露漁業協約改締準備委員会設置ノ件

二 右委員会委員任命案

三 右委員会委員補欠任命案

第四六号

日露漁業協約改締問題ニ関シ当地新聞「ダリオカヤ、ウクライナ」紙ハ一月十九日ノ紙上ニ於テ前「ケレンスキー」政府極東代官「ルサノフ」氏ノ寄書ヲ掲ケ大要ヴォロゴドスキー政府ノ極東漁業庁改革ハ帝政時代ノモノト著シク變更セルノミナラズ露國ハ全然中央ニ於テ漁業専門ノ機關ヲ有セズ政府自身モ未タ外國ノ承認ヲ得居ラザルニ依リ極東漁業ハ此際須ラク關係官庁トモ連係ヲ取り極東地方自治聯合大会ヲモ説キ公共団体ト共ニ本問題ヲ討究シ且ツ「ブラデニコフ」「グリム」等斯道大家ノ立案ニ係カル旧帝國議

七 日露漁業協約ノ効力持続ニ関スル件 二二四

會漁業法案ヲ參酌シテ其組織ヲ追補スヘシト論ジ又二十四日前記極東自治團聯合大会ニ於テ同新聞主幹「パンテレエフ」氏ハ極東露領領海ニ於ケル日露漁業ノ紀元及發展ノ模様ヲ詳説シ協約ノ意義並ニ漁業ノ将来ニ関シ報告演説ヲナシタル後左ノ決議案ヲ提議シ大体賛成ヲ得タルモ該會議ハ「パンテレエフ」「ルサノフ」及漁業庁側代表者「メンシチコフ」「ロヂコフ」及「ポルウワトフ」ノ五名ヲ議員ニ選定シ右提案ヲ審査スルコトニ決シタリ  
(一)露國ニ於テハ日本ノ承認スル政府存在セズ随テ協約第十二条ノ規定ニ基キ当方ニ於テ更ニ協約スルコト不可能ナルノ状態ニ在ルニ依リ協約ハ變更ヲ加ヘズシテ其効力ヲ逐年延期スルコトヲ得ルノミ  
(二)帝國議會ガ立案シタル法案ヲ基礎トシ民間公共分子ヲ入ルルコト  
(三)地方自治團聯合會ニ於テ委員ヲ選任シテ協約ニ関スル問題ヲ審議スルコト  
(四)右ニ関スル費用支出ノコト